

瀬戸山陰部 部会  
受付



部会式典



司会 馬越部書記



奏楽 梅村 芳氏



部会風景



開会点鐘



奨励 加藤米子クラブ会長



菅原瀬戸山陰部部長挨拶



西日本区理事西日本区理事仁科挨拶  
メネット事業アピール



閉会点鐘



坂本メネット事業主任



献金祈禱 山本メネット主査



豊島神愛園支援のため姫路クラブメネットクラブは北海道の昆布を販売しました

2部 講演会 講師 大野 嘉宏 ワイズ

演題 「元気を出して行こう！ 瀬戸山陰部。」



講師 大野ワイズ

司会 橋崎副会長



講演風景

各クラブ会長より EMC についての現状報告がありました



岩崎会長



長壽会長



福島会長



三宅会長



加藤会長

質疑応答 各テーブル代表者



新山 EMC 事業主任



謝辞 菅原 部長



全体写真

第3部 懇親会



司会 永戸直前会長



懇親会会場



懇親会風景



姫路YMCAハンドベルアンサンブル&姫路YMCAハンドベルクラブ演奏



歓迎の挨拶&食前感謝祈禱



蔵知次期部長乾杯



会食風景



各主任アピール



各クラブよりメネット協力金贈呈

米子クラブ 岡山クラブ 姫路クラブ 姫路グローバルクラブ 鳥取クラブ

瀬戸山陰部より部会の献金と講師の大野ワイズの謝礼とメネット支援事業に捧げました

各アピール



姫路グローバルクラブ



山根EMC主査



杉浦阪和部部長



桑田西中国部部長



西日本区 2000 チーム



西日本区大会PR



坂本メネット主任お礼



神谷行政監事



懇親会風景



YMCAの歌斉唱



閉会挨拶

## 大野ワイズ講演要旨

各クラブの抱えている問題は瀬戸山陰部だけでなく、西日本区全体の問題でもあります。問題は現状で満足してことです。「あなたの話はわかりますが、現実に行動しているのですか」と聞かれますが、私は京都パレスクラブで行動した話を参考に聴いてください。私は27歳で京都ワイズメンズクラブに入会しました入会の動機は経営者として孤独感から友達を作りたいと思いお誘いがあり入会しました。当時のクラブが若い20代の青年が入会したけれど受け入れていただけなかった雰囲気があった。あるとき自分のおもうようなクラブを創ってみたら、といわれて創ったのが京都パレスクラブです。我々夜に集まって会議をするには楽しくなければならぬ。当時はそれとクリスチャン以外は馴染みにくい雰囲気がありましたので新しいクラブを創るといふ思いだけでクラブを創りました。当時は周囲に認められず、迷っていると、ある一人のクリスチャンのかたが、「これからのワイズメンズクラブはこのような形になるから頑張ってみてね」といわれ感動を覚えました。それから3年後に90人になり2つのクラブを創り、現在15クラブが京都パレスクラブから分かれてできています。これは特別なことではなく、皆さんのクラブでもできることです。よく若い人が集まらないということをよく聴きます。それは自分たちのクラブの良さを、メンバー以外の人にアピールできていないことが原因ではないでしょうか。初めて来たメンバー自信を持って活動を言えることが大切です。クラブメンバー一人一人が自分のクラブに自信をもてなければ、新しい人も入会しません。よく「ワイズメンズクラブとは何ですか」と聞かれたとき、「YMCAの奉仕団体です」と答えるメンバーがいます。YMCAを知っている人はわかりますが、YMCAを知らない人には伝わりません。各クラブにメンバーが集まるのが、YMCAや地域に奉仕することができるのであって、現状に満足せずクラブの人数を増やすことが大切なことである。この話を聴いて一人でも多くメンバー増強を始めていただき、次回会ったときには今よりメンバーが増加していることを期待しています。

ワイズメンズクラブの歴史について話します。まず人と人の集まる形成する元祖はロータリークラブです。1900年初頭のアメリカで4人の若者が私たちが食事しながら異業種の人と、これからの将来を語ろうとはじめたのが始まりです。その集まりを各事業所廻って話しているうちにいろんなアイデアが集まり、ロータリークラブの原型を作りました。ロータリークラブだけでなく我々ワイズメンズクラブも同じです。儲けてた金で困った人のために何かをしようとしたクラブではないのです。最初は個人の悩みを相談する そんなところから始まったのです。まずいろんな人と話し合うことで自分にとって向上できることを神に感謝し、そのことを社会に還元するという善がアメリカから始まった。組織が大きくなると考え方の違いが出てきます。個人の奉仕だけでなく団体で社会に寄付しましょうということで始まったのがライオンズクラブです。当時アメリカではいろんな奉仕団体ができていき、ポールアレキサンダーがYMCAを去るときに、自分が捧げたYMCAを支える団体はできないかと、ライオンズクラブを真似てできたのがワイズメンズクラブです。私もBFデリゲートでアメリカに行きましたときに発祥地に行ってチャータメンバーと会うことができました。現在1900年初頭に生まれたこれらのクラブはどうなっているかという、ロータリークラブが約21万人ライオンズクラブ約35万人 ワイズメンズクラブは2万7千人になっています。なぜこれだけ差がついたのか、悔しいと思いませんか。

一番大切なことはこのクラブに入ったのはYMCAの奉仕のために入ったのではないということ、心にして記憶しておくべきです。皆さんが仲良くなってできた力を、ロータリークラブは個人の会社や仕事、ライオンズクラブはみんな社会のために、我々は地位のためYMCAのために奉仕することを忘れてはならないのです。クラブづくりで大切なことは世俗の原理を持ち込まないということです。クラブに来た以上どんな地位の人であっても、世俗のことを忘れ年寄りや若いも者も一緒にワイズメンズ活動をする。このことで生まれた感謝の気持ちをほかの人に分け与える。このことが大切です。このように奉仕クラブとは何ですかということをおわかっていただけたと思います

5年後 10年後に皆様のクラブがどうなっているか考えたことがありますか。自分で創ったクラブだから自分の代でなくなってもよいそんな考えでやらないで欲しい。あなた方はこの時代に各クラブの運営を神様から任されているのです。それを自分がしないために5年後 10年後なくなってしまうかもしれないこんな勝手な理論をしないでください。5年後 10年後に我々ワイズメンズクラブも存続し、YMCAも存続させることが我々の責任です。そのためには、30代 40代の人を入れなければなりません。神様からいただいたワイズメンズクラブを繋いでいく責任は皆さんにあります。こういうことでクラブ運営を真剣にやっていただきたいと思います。

実践論からいくともっとワイズメンズクラブを増やす必要があります。基本的にすることは各クラブで考えればいいことですが。ただし社会の立場では自分のわがままがとおる立場であっても、クラブでは通らないことが多くあります。それを無理に通すとクラブは分裂します。自分の意見がフラットのところで通るかどうか、自分で反省することも必要です。ワイズメンズクラブとキリスト教については、教会活動とワイズメンズ活動と一線を引いて考えてください。ワイズメンズクラブのルーツであるキリスト教を忘れてはいけませんが、誰にもわかるキリスト教を伝えてください。皆さんの行動を見て伝わります。例会の運営 会場ですが時間通りに始める。 バナーが飾ってある 点鐘がきちっと鳴る 定時に集まっている これらのことをみて新しい人は入会を決めます。初めての方のために分かりやすい例会を心がけることが大切です。振り返って今他の人を受け入れる例会をしていますか。自分たちだけの例会をしていませんか。そこが大切なことです。例会のプログラムもみんなの心に響く人の話を心がけましょう。例会前に新しい人のために例会の説明 点鐘 歌を歌う(手を上げる)音楽を入れる お祈りYMCAより生まれたクラブであること 等ワイズ用語やキリスト教のことは説明しておきましょう。会費の件について安いからいいとは思いませんが、若い人が払っても勉強になると思えるぐらいの金額にする必要があります。個人が進んで例会に来る雰囲気のある例会を創る必要があります。善良な社会人が定期的に会い通じることによって親睦が生まれる。親睦によって奉仕と新しい経験が生まれる。経験から感動が生まれる。このことが自己向上につながる。そんな人を身近の人から見つけてください。自分たちの値打ちを見つけてこれから活動してください